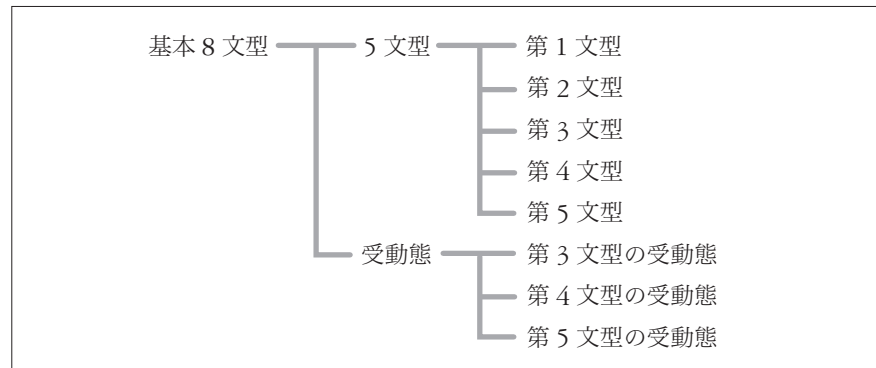


第1部 単語と単語の結びつき

文は単語と単語が結びつくことで成立しますが、英文の結びつき方のパターンの主なものは、全部で8つです。まずはこの8種類の文を扱います。

次に、これらの文が変形するようすを見ます。これが第1部の内容です。

上の「8種類の文」とは、名詞、動詞、形容詞という、最も基礎的な3つの品詞が、どの順に、どのような関係で、いくつ並ぶのかということに基づいて分類したものです。この8つを本書では「基本8文型」と呼ぶのですが、これは「5文型」と「受動態」に分かれます。次の通りです。



英文には短いものも長いものもありますが、どんなに長く複雑な文であっても、それを構成する各部分のまとまり（具体的には、後に扱う「従属節」や「準動詞句」など）は基本8文型のいずれかです。また、文全体も8文型のいずれかです。よってここでシンプルな文を利用して8つの文型をマスターしておけば、難しい文の各部分が理解でき、全体も理解できるようになるのです（このことは本書の中で証明します）。基本8文型の知識は、長く複雑な文を理解するために不可欠のものなのです。英語を学び始めたら、少しでも早い段階で身につけるべき、最も重要な知識のうちの1つだといえます。中学生の方も、可能な限り早くマスターしてください。

ちなみに上の「5文型」の代わりに別の数の文型理論が提唱されることもありますが、5文型理論を採用しないと、途方もなく大きな弊害^{へいがい}が出ます。これは本書の最後に詳しく説明します。とにかく「5文型+3つの受動態」は、絶対といえるほどに大切な分類なのです。

この第1章で扱う文は、易しいものが大半なので、「今さらこんな簡単な文を扱う必要はない。自分が理解できないのは、もっと難しい文だ。そういうのを重点的に扱ってほしい」「名詞だの動詞だの、そんなことは小学生の時からとっくに知っている」というようなことを思うかもしれません。

ところが、前のページで述べた通り、長く複雑で難しい文を理解する際に、前もって易しい文を利用して学んでおいた知識が役に立つのです。この基本8文型の知識は、スポーツ選手のトレーニングにおける、ランニングのようなものです。ランニングという単純な作業を通じて強い下半身を作っておけば、トップスピードで走る力も増し、複雑な動きをする際にも生きてきます。この第1部・第1章で、まずはしっかりと「英文法の下半身」を鍛えることにしましょう。

①-5文型

では、第1文型の例文から順に見ていきます。

Lisa danced. (リサが踊った)

Meg laughed. (メグが笑った)

The dog swam. (その犬が泳いだ)

これらの文は「名詞 動詞」という並びです。先頭の名詞は、文中で主語と呼ばれる役割を果たします。動詞は述語と呼ばれる役割を果たします。

主語は「S」、述語は「V」という記号で表されます。このような記号はとても便利なので、本書でも用いることにします。数学の世界で「+」「-」「×」「÷」などの記号を用いるのと同じようなことだと考えてください。数学と同様に英文法の世界においても、記号を用いることにより、表記上の効率ははるかに良くなるのです。

なおはじめのうちは、名詞、動詞、形容詞などの「品詞」と、主語、述語、目的語などの「要素」の関係がつかめず、混乱することがあるのですが、これについてはp.47で述べますので、気にせず読み進めてください。

第1部 時制 — 動詞・助動詞の形の変化

この第1部では、動詞、助動詞の形が変わり、組み合わせることによって、文の意味がどのように変化するかということを見ていきます。

最初に次の4つを扱います。

- 第1章 基本形 (助動詞が存在しない文)
- 第2章 進行形 (助動詞 be が存在する文)
- 第3章 完了形 (助動詞 have が存在する文)
- 第4章 法助動詞が存在する文

この4章が第1部の土台となります。まずはこれを固めましょう。

さて、上で「動詞、助動詞の形が変わり」と述べましたが、ここで、動詞、助動詞の形を確認しておきます (p.50 より転載)。

現在形	原形の語尾に -s を加えた形
過去形	原形の語尾に -ed を加えた形
原形	動詞の元の形 (辞書に見出し語として記載されている形)
to 不定詞形	原形の前に to を加えた形 ※ to は離して置く
ing 形	原形の語尾に -ing を加えた形
過去分詞形	原形の語尾に -ed や -en を加えた形

では、第1章に入っていきます。

助動詞が存在しない文を、本書では「基本形」と呼ぶのでした (p.50 参照)。基本形の文は、述語の先頭の形を基準にすれば、次の2つに分けられます。

- 1 述語の先頭が現在形の文
- 2 述語の先頭が過去形の文

それぞれを見ていきましょう。

① 述語の先頭が現在形の文

述語の先頭が現在形のものは、文字通り、現在のことを表します。

◎ 61-①

My mother was thin when she was young, but she is heavy now.

(母は若い頃はやせていたが、今は太っている)

I remember his name now, but someday I will forget it.

(今は彼の名前を覚えているが、いつかは忘れるだろう)

最初の文の **She is heavy** の部分は、過去と比べたうえで、現在のことを述べています。2番目の文の **I remember his name** の部分は、未来との対比における現在の状況を表しています。is も remember も、現在を表しているといえます。

現在形には、特に「現在」という意味を持たない例も数多くあります。次のような例です。

◎ 61-②

We live in Shimane Prefecture. (我々は島根県に住んでいる)

I study French before breakfast every day.

(私は毎日、朝食の前にフランス語を勉強する)

Light travels fast. (光は高速で進む)

これらの文の内容は、特に現在に限った話ではありません。「現在」というよりも「現実」、あるいは「事実」「真実」を述べる用法です。こちらの用例のほうが多いといえます。